創立 65 周年記念特別企画「未来を創れ！」世界に羽ばたく同窓生の今

甲良（こうら）　直美（なおみ）さん

在籍した時期：小学部 1 年～中学部 3 年（1996 年 4 月～2005 年 3 月）
アメリカ生まれ。高校までを MD で過ごし大学入学を機に日本在住。
学習院女子大学卒、現在、日本航空㈱勤務。

Q. 日本語学校はどんな存在でしたか？楽しかった思い出は？

日本語学校は私にとって、自分らしさを表現しやすい場所でした。バイリンガルですが、家の中は日本語が中心だったので、外に出ればアメリカ、家の中が日本という不思議な感覚でした。当時は今ほど日本文化がアメリカに浸透していなかったので、日本語学校は大好きなアニメ・漫画・ゲームを友達と気軽に語れる貴重な場所でした。毎年楽しみにしていた運動会のパンフレットの表紙に自分の絵が選ばれた時は大変嬉しかったです。

毎年楽しみにしていた運動会にて（小２）

Q. 日本語学校での経験が役立っていると思うことは？

日常会話の読み書きだけでなく、日本へ戻っても学校の授業についていけるように、算数、国語、社会、歴史等の勉強が含まれていたことです。日本の義務教育を学べたので、趣味の漫画やドラマも理解しながら楽しめただけでなく、アメリカから日本へ生活が変わった時のカルチャーギャップが受け入れやすかったです。

Q. どのタイミングで生活の軸を日本にしようと思いましたか？

日本人なのに日本のことを知っているようで知らなく、アメリカの大学で特別学びたいこともなかったので、日本で生活してみたいと思い、日本の大学を受験しました。卒業後はそのまま日本の企業に就職したので、自然と拠点になりました。

Q. 在学中に親が担った役割や感謝していることは？

毎日の送り迎えや朝早くからの私と弟二人分のお弁当作り、宿題のヘルプです。中でも一番感謝していることは、アニメ・ゲーム・漫画を禁止しなかったことです。親のサポートのおかげで現地校と週末の日本語学校の両立ができました。また、好きな物を禁止されなかったため、日本語をもっと学ぼうという気持ちになれました。

日本語と英語を使いこなし、世界各国の部品販売会社と取引中

Q. 進学や将来の方向性を決める際日本や日本語が影響を及ぼしましたか？

母が昔客室乗務員だったことや毎年夏休み、たまに冬や春も日本へ行っていたので飛行機は身近で当たり前のものでした。アメリカだと Aviation（航空業界）はあまり人気キャリアではなかったので諦めていましたが、日本では人気の職種の一つであったので、運よく縁があって就職しました。今は楽しく仕事ができ、やりがいを感じています。数年前まで空港勤務でしたが、現在 JAL 本社の調達本部整備調達部で飛行機の部品を世界各国の販売業者から購入する仕事をしています。

Q. 在校生へのメッセージ

私はアメリカで生まれたのにアメリカ人になりきれない、日本人なのに日本人になりきれない。中途半端で選べない自分が大変コンプレックスでした。ですが、自分のカルチャーを知ることで、どちらかではなく、両方選んでも良いんだと思えるようになり、大変楽になりました。今では両方の文化を知っていることが私の財産です。

在校生の中には私と同じアメリカ生まれで、同じ理由で悩んでいる人がいるかもしれませんが、そのコンプレックスは強みなので、自信を持ってください！ それから、ワシントンに住んでいる皆さんは ANA の方が馴染み深いと思いますが、JAL も ANA 同様、世界各国のトップを争う航空会社です。機会がありましたら、是非 JAL もご利用ください！